

これまでの意見等を踏まえた郡山市の SWOT 分析

プラス要因

強さ・長所

- 新幹線で東京駅まで約 80 分・仙台まで約 40 分
- 東北自動車道などの交通ネットワーク
- 鉄道結節点、福島県内各地へのハブとしての位置付け
- 観光資源、豊富で良質な食材に恵まれている
- 福島県随一の産業都市としての集積
- 連携中枢都市としての位置付け
- 県内の大学・専門学校の多くが市内に立地
- 日本大学工学部やテクノアカデミー郡山などの職業系人材育成機能が充実
- 再生可能エネルギー、医療機器分野の研究開発機能集積
- 安積疏水に象徴される進取の気性、開拓者精神
- 首都圏に比べて高い出生率
- 音楽のまち（合唱コンクールの実績等）

Strengths

機会

- 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会開催決定
- 連携中枢都市圏モデル事業に採択された
- 震災復興（震災復興特区指定、復興関連需要）
- 産総研 福島再生可能エネルギー研究所 開所
- 心くしま医療機器開発支援センター 開所予定
- 震災後始まった都市部の消費者との交流
- 六次産業化の取り組み、地域の農産物への評価の高まり
- 震災により減少した人口が増加に転じ、社会人男性の転入の増加
- 市内学生の地元志向が震災後高まっている
- 都市部に潜在的な地方定住希望者が一定割合存在
- 海外からの観光客増加

Opportunities

マイナス要因

弱み

- 若年層が東京圏に流出し続ける社会移動構造
- 震災前の景気低迷期に若年層の人口流出傾向が特に強まった
- 震災前から若年女性の流出傾向が強い
- 東京への距離の近さからくる、ブランドイメージ確立の難しさ
- 郡山なら〇〇というようなものがなく、まちのブランド力が弱い
- 食材の品質は高く、食べ物はなんでもおいしいがアピールできる料理がない
- 地方支社や営業所が多く全国的な企業が少ない（いわゆる支店文化）
- 若者や女性に魅力がない店舗・品ぞろえ（東京や仙台に購買力が流出）
- 資源はあるが文化的な都市のイメージが弱い
- 住んでみるといいまちなのに、それが発信できていない
- 新しい物好きだが長期の取り組みが弱い
- 単身赴任の通勤族が多い

Weakness

脅威

- 少子高齢化（2025 年問題・福祉人材不足）
- 国内製造業の空洞化、生産拠点の海外流出
- 東京圏への人口集中傾向が続いている
- 震災及び原子力災害により一時的に人口が減少（主に若年層）
- 男性の転入は増えたが若年女性の転出超過傾向に歯止めがかからない
- 原子力災害と風評等により失われた市場シェア（農産物・食料品等）
- 原子力災害に関する風評が一部残っている
- 浜通りに近いいわき市に避難者、復興事業関係者が集中
- 復興需要により県内の有効求人倍率が上昇（人手不足）
- 東北地方の中では比較的人件費が高い

Threats

内部要因

外部要因